

# 人 口

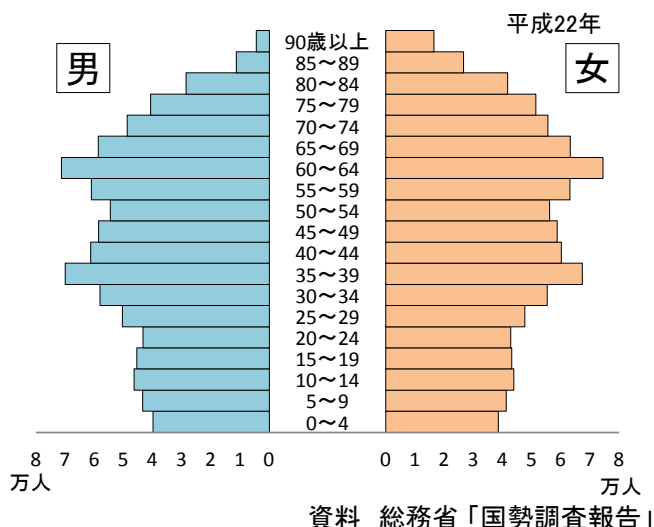
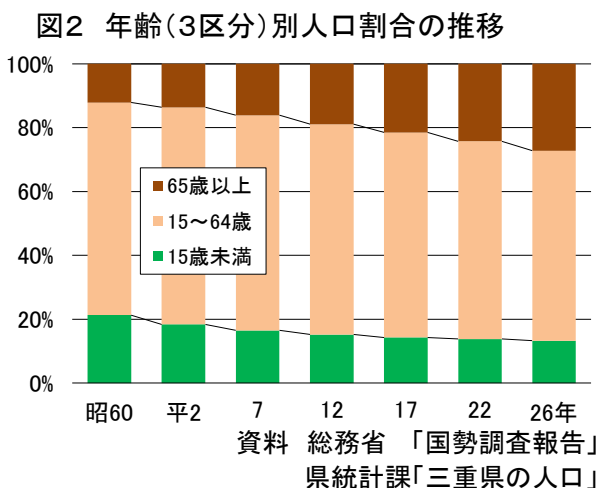
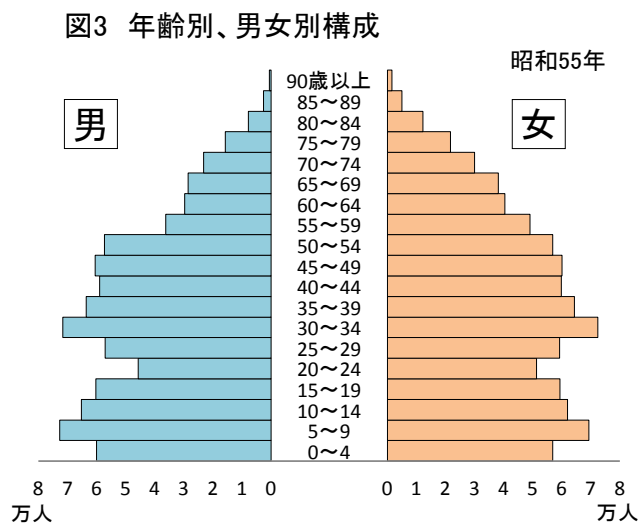
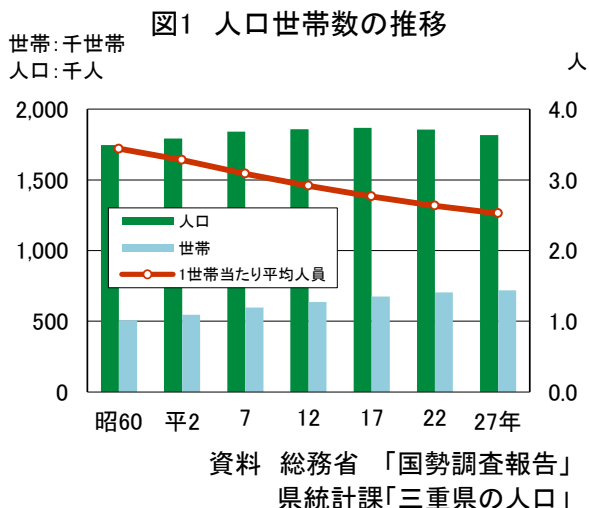
## 平成27年国勢調査結果（速報）

平成27年10月1日現在の総人口は181万5,827人（男88万3,188人 女93万2,639人）で、前回の国勢調査（平成22年）に比べ3万8,897人（2.1%）減少しました。人口が減少したのは前回調査に引き続きですが、今回の国勢調査では減少割合が増えています。（前回調査では、前々回に比べ1万2,239人（0.7%）減少しています。）

また、総世帯数は71万8,759世帯で、前回調査に比べて1万4,152世帯（2.0%）増加しました。

## 平成22年国勢調査結果

平成22年10月1日現在の総人口は185万4,724人（男90万3,398人、女95万1,326人）で前回調査の平成17年に比べ12,239人（0.7%）減少しました。国勢調査結果による三重県の人口の推移を見ると、昭和30年～35年にわずかに減少したのを除くと、大正9年以降増加を続けていましたが、今回減少に転じました。総世帯数は70万4,607世帯で、平成17年に比べ2万9,148世帯（4.3%）増加しました。



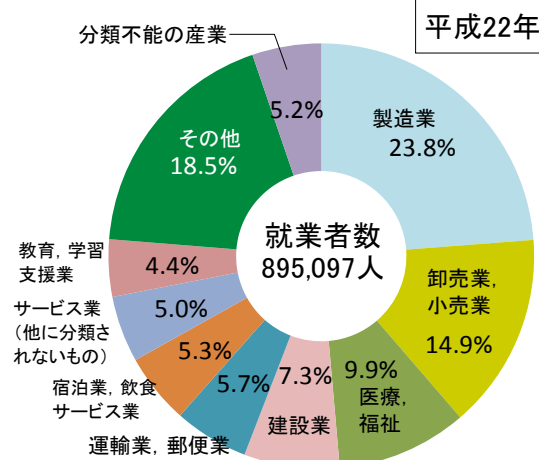
産業別就業者数

平成22年10月1日現在（国勢調査）の15歳以上の就業者は89万5,097人で、前回調査の平成17年に比べ2万7,525人減少しました。

産業大分類別にみると、最も多いのは製造業の21万2,856人（構成比23.8%）、次いで卸売業、小売業の13万3,343人（同14.9%）、医療、福祉の8万8,904人（同9.9%）と続いています。

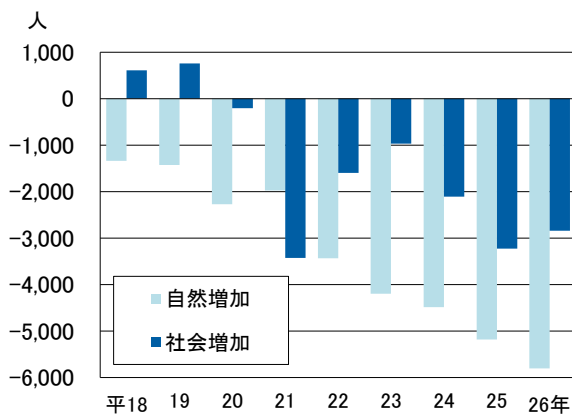
また、産業3部門別にみると、第1次産業が3万3,016人（構成比3.7%）、第2次産業が27万8,346人（同31.1%）、第3次産業が53万6,802人（同60.0%）となっています。

図4 産業別就業者数



資料 総務省「国勢調査報告」

図5 人口動態の推移



資料 総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」  
厚生労働省「人口動態統計」

人口動態

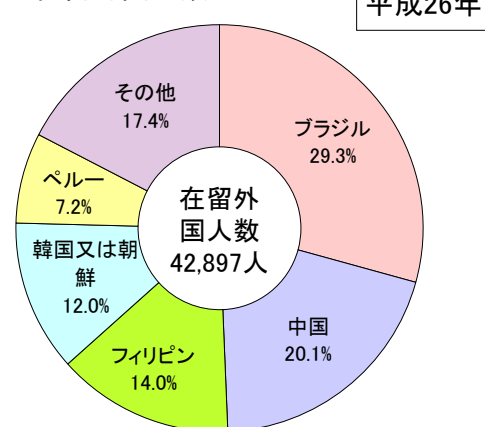
平成26年1年間の人口動態は、出生1万3,727人、死亡1万9,525人、他都道府県からの転入2万6,337人、他都道府県への転出2万9,176人となりました。

人口動態の推移を自然増加（出生－死亡）と社会増加（県外からの転入－県外への転出）でみると、自然増加数は年々、減少数が拡大する傾向にあり、平成26年には5,798人の減となりました。また、社会増加数は平成18、19年は転入超過、20年から26年までは7年連続（平成26年2,839人）の転出超過となりました。

在留外国人数

平成26年12月31日現在の在留外国人数は、4万2,897人でした。国別の内訳をみると、ブラジルが1万2,559人（外国人構成比29.3%）、中国が8,610人（同20.1%）、フィリピンが6,022人（同14.0%）、韓国又は朝鮮が5,158人（同12.0%）、ペルーが3,086人（同7.2%）などとなっています。

図6 在留外国人数



資料 法務省「在留外国人統計」